

令和7年度 竹田教育事務所 実践事例の紹介

オンライン合同授業～小小連携～

豊後大野市小中一貫教育校 三重学園

三重第一小学校(児童数:312名)・百枝小学校(児童数:72名)

遠隔システムを活用した 合同授業

Point 1

小規模校における協働的な学習がひろがる

Point 2

小小連携の取組を通して、複数の学校で一貫性のある学習経験を得る

小学校6年生 外国語

～我が校の“魅力”発信！～ 学校の行事や施設・学校にあるものについて伝え合おう
三重第一小学校 26名 百枝小学校 11名

☆授業の様子☆ (三重第一小学校)

お互いの学校の行事や学校にあるものについてのプレゼンテーションを行っている。班ごとに動画や写真を見せながら、自分の学校の魅力について相手の学校の児童に伝えている。



三重第一小学校の発表の様子
(班ごとにモニターの前で発表)



百枝小学校の発表の様子
(百枝小の発表を視聴)



三重第一小学校の授業者が両校の児童に対して説明を行っている。

***発表の仕方や発表内容の確認**

【遠隔授業の成果】

- ・小小連携の取組を通して、学校間の学習進度と学習内容を揃え、一貫した学習を行うことができる。
- ・専科教員が同時に複数クラスで授業をすることができる。
- ・小規模校の児童が他校の児童と交流することで、協働的な学習が広がる。
- ・お互いの学校のことを知ることができ、行事等で連携した活動ができるようになる。

【授業者(三重第一小)より成果と課題】

同じ授業内容で準備・練習を進め発表の場をもったが、お互いの学校で子どもたちの工夫の仕方が異なっていたことが興味深かった。工夫の凝らし方が異なる発表をお互いに見合い、刺激を受け、次回の発表に取り入れようとする姿が見られた。また、自分の発表を相手がどんな反応で見てくれているのかを楽しみにしている様子も見られた。機器の準備やその操作方法に課題は残るが、児童のモチベーション向上につながる取組となった。

【授業者(百枝小)より成果と課題】

合同授業の回を重ねるごとに、遠隔システムの中で効果的に意思疎通・相互理解を進める工夫を行うことができた。

例:「モニターは2台設置で、指導者(黒板)と学習者の反応や表情を同時につかむ」「ミュート時は身振りで反応を伝える。」